

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月7日
【四半期会計期間】	第91期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）
【会社名】	三洋化成工業株式会社
【英訳名】	SANYO CHEMICAL INDUSTRIES,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 安藤 孝夫
【本店の所在の場所】	京都市東山区一橋野本町11番地の1
【電話番号】	075(541)4314
【事務連絡者氏名】	経理部長 三浦 正人
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル
【電話番号】	03(5200)3400
【事務連絡者氏名】	東京支社総務部長 丸林 裕之
【縦覧に供する場所】	三洋化成工業株式会社 東京支社 （東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル） 三洋化成工業株式会社 大阪支社 （大阪市中央区本町一丁目8番12号オーク堺筋本町ビル10階） 三洋化成工業株式会社 名古屋営業所 （名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号名古屋三井ビル本館16階） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

(注)上記の東京支社、大阪支社及び名古屋営業所は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第1四半期連結 累計期間	第91期 第1四半期連結 累計期間	第90期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成26年4月1日 至平成26年6月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	38,997	40,793	165,183
経常利益 (百万円)	3,094	2,251	9,212
四半期(当期)純利益 (百万円)	2,009	1,359	4,918
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	4,395	1,791	11,071
純資産額 (百万円)	97,786	105,047	103,907
総資産額 (百万円)	160,099	167,670	166,529
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	18.22	12.33	44.60
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	59.0	59.9	59.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,467	1,986	15,769
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,477	1,352	8,659
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,097	907	2,567
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	11,270	14,941	15,476

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の[主要な経営指標等の推移]については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出が横ばいで推移し、設備投資の増勢が継続するなど、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、一部には消費税増税に伴う駆け込み需要の反動から弱含みの動きも見られます。また、欧米では景気持ち直しの動きがあるものの新興国経済の下振れリスクなど、わが国を取り巻く環境は依然として先行き不透明な状況にあります。

化学業界におきましては、為替は安定しているものの、原燃料価格は高値が継続している状況にあり厳しい状況が続いております。

このような環境下における当第1四半期連結累計期間の売上高は、消費税増税の影響が限定的なものにとどまったこともあり、407億9千3百万円(前年同期比4.6%増)となりました。利益面では、原燃料価格が前年同期比高どまりの状況にあることなどにより、営業利益は19億5千万円(前年同期比21.0%減)、経常利益は22億5千1百万円(前年同期比27.2%減)、純利益は13億5千9百万円(前年同期比32.3%減)となり、増収減益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### <生活・健康産業関連分野>

生活産業関連分野は、液体洗剤用界面活性剤が堅調な需要の増加を背景に、売り上げを伸ばしましたが、ヘアケア製品用界面活性剤や海外を中心としたポリエチレングリコールの価格競争が激化したこともあり、売り上げは低調となりました。

健康産業関連分野は、紙おむつの薄型化等に貢献する高性能高吸水性樹脂の拡販が進みましたが、一部価格競争の激化もあり、売り上げは横ばいとなりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は157億2千5百万円(前年同期比1.2%減)、営業利益は8億1千3百万円(前年同期比19.4%減)となりました。

#### <石油・輸送機産業関連分野>

石油・輸送機産業関連分野は、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料の国内需要が堅調に推移したことに加え、海外での拡販により、大幅な売り上げ増となりました。また、潤滑油添加剤も省燃費対応エンジンオイルの需要拡大が続いたことに加え、米国における新設備の稼働も奏功し、売り上げを大幅に伸ばしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は97億1千9百万円(前年同期比10.7%増)となりましたが原燃料価格の上昇により、営業利益は1億9千5百万円(前年同期比66.4%減)となりました。

#### <プラスチック・繊維産業関連分野>

プラスチック産業関連分野は、塗料・コーティング用薬剤などが大幅に売り上げを伸ばしました。また、電子部品搬送トレーなどに使用される永久帯電防止剤も低抵抗型高性能製品の拡販が進み、売り上げは大幅に増加しました。

繊維産業関連分野は、ガラス繊維用薬剤の需要低迷が続く中、国内ユーザーを中心とした拡販に努めたこと、炭素繊維用薬剤の需要が海外を中心に増加したこと、自動車エアバッグ系やタイヤコード系などの製造時に用いられる繊維用薬剤が好調に推移したことにより、好調に売り上げを伸ばしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は54億4千9百万円(前年同期比14.3%増)、営業利益は6億2千7百万円(前年同期比0.3%増)となりました。

#### <情報・電気電子産業関連分野>

情報産業関連分野は、粉砕トナー用バインダーは横ばいでしたが、重合トナー中間体ポリエステルビーズの一時的な需要減により低調な売り上げとなりました。

電気電子産業関連分野は、アルミ電解コンデンサ用電解液の需要が復調したことやフラットパネルディスプレイ用樹脂の上市が順調に進んだことに加え、電子材料用粘着材の需要が増加したことなどにより、売り上げを大幅に伸ばしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は52億7千8百万円(前年同期比1.0%増)、営業利益は2億9千8百万円(前年同期比17.5%増)となりました。

#### <環境・住設産業関連分野他>

環境産業関連分野は、主力の高分子凝集剤が市況悪化により、低調となりました。

住設産業関連分野は、建築シーラント用原料や家具・断熱材などに用いられるポリウレタンフォーム用原料の需要が好調に推移し、売り上げが大幅に増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は46億2千万円(前年同期比7.1%増)、営業利益は1千6百万円(前年同期比40.6倍)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は、時価評価による投資有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に比べて11億4千万円増加し1,676億7千万円となりました。

また、純資産は前連結会計年度末に比べて11億3千9百万円増加し1,050億4千7百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末から0.4ポイント上昇し59.9%となりました。

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末残高と比較し5億3千4百万円減少（前年同期は11億5百万円増加）し、149億4千1百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は、19億8千6百万円（前年同期は44億6千7百万円の増加）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益20億9千8百万円、減価償却費22億6千9百万円、仕入債務の増加13億2千5百万円などによる資金の増加が、たな卸資産の増加15億5千3百万円、法人税等の支払12億2千2百万円などによる資金の減少を上回ったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、13億5千2百万円（前年同期は24億7千7百万円の減少）となりました。これは、固定資産の取得に14億4千5百万円を支出したことなどによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、9億7百万円（前年同期は10億9千7百万円の減少）となりました。これは配当金の支払8億1千万円などによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありませんが、第8次中期経営計画(2011～2014年度)に掲げた「グローバルに、ユニークな優良企業グループ」を目指し、引き続き企業体質の抜本的な改革と基盤の強化に努めてまいります。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は13億3千7百万円となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第1四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

(新設)

会社名 事業所名	所在地	設備の内容	セグメントの 名称	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力 (月間)
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社 京都工場	京都市 東山区	新製造事務所 改装工事	全セグメント	125	-	自己資金 及び借入金	平成26年6月	平成27年3月	-

(注)上記金額には消費税等は含みません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	257,956,000
計	257,956,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	117,673,760	117,673,760	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	117,673,760	117,673,760	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	-	117,673	-	13,051	-	12,191

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 7,401,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 109,690,000	109,690	同上
単元未満株式	普通株式 582,760	-	-
発行済株式総数	117,673,760	-	-
総株主の議決権	-	109,690	-

## 【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
三洋化成工業(株)	京都市東山区一橋野本町11番地の1	7,401,000	-	7,401,000	6.29
計	-	7,401,000	-	7,401,000	6.29

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、前事業年度の有価証券報告書に記載した事項を除き、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	15,476	14,941
受取手形及び売掛金	43,626	43,691
商品及び製品	12,101	13,489
半製品	3,464	3,885
仕掛品	495	290
原材料及び貯蔵品	4,110	3,874
繰延税金資産	1,281	1,275
その他	711	1,383
貸倒引当金	34	35
流動資産合計	81,232	82,797
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	16,705	16,519
機械装置及び運搬具（純額）	27,533	26,293
土地	8,748	8,740
建設仮勘定	1,468	1,420
その他（純額）	1,619	1,468
有形固定資産合計	56,076	54,442
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	924	885
のれん	1,201	1,168
その他	477	455
無形固定資産合計	2,603	2,509
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	25,005	26,376
長期貸付金	1	3
繰延税金資産	365	364
その他	1,280	1,212
貸倒引当金	36	35
投資その他の資産合計	26,617	27,921
<b>固定資産合計</b>	85,296	84,873
<b>資産合計</b>	166,529	167,670

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,322	29,414
短期借入金	9,868	10,184
1年内返済予定の長期借入金	5,871	5,864
未払費用	3,065	3,681
未払法人税等	1,202	514
賞与引当金	1,723	880
役員賞与引当金	81	19
設備関係支払手形	710	991
その他	3,045	3,086
流動負債合計	53,890	54,637
固定負債		
長期借入金	3,017	2,580
繰延税金負債	2,154	2,855
役員退職慰労引当金	606	316
退職給付に係る負債	1,999	1,195
その他	953	1,037
固定負債合計	8,732	7,985
負債合計	62,622	62,623
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,051	13,051
資本剰余金	12,194	12,194
利益剰余金	70,412	71,311
自己株式	5,714	5,715
株主資本合計	89,943	90,841
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,099	9,079
為替換算調整勘定	1,310	750
退職給付に係る調整累計額	191	169
その他の包括利益累計額合計	9,217	9,660
少数株主持分	4,746	4,545
純資産合計	103,907	105,047
負債純資産合計	166,529	167,670

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	38,997	40,793
売上原価	31,857	33,768
売上総利益	7,140	7,025
販売費及び一般管理費	4,670	5,074
営業利益	2,469	1,950
営業外収益		
受取利息	15	17
受取配当金	183	221
持分法による投資利益	141	208
不動産賃貸料	78	77
為替差益	304	-
その他	32	3
営業外収益合計	756	528
営業外費用		
支払利息	91	76
不動産賃貸原価	15	15
たな卸資産廃棄損	9	21
為替差損	-	89
その他	15	25
営業外費用合計	132	227
経常利益	3,094	2,251
特別利益		
投資有価証券売却益	0	2
固定資産売却益	5	-
受取保険金	15	2
特別利益合計	21	5
特別損失		
固定資産除却損	120	156
その他	-	2
特別損失合計	120	158
税金等調整前四半期純利益	2,994	2,098
法人税等	770	593
少数株主損益調整前四半期純利益	2,224	1,505
少数株主利益	214	146
四半期純利益	2,009	1,359

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,224	1,505
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,005	979
為替換算調整勘定	1,165	717
退職給付に係る調整額	-	22
その他の包括利益合計	2,171	285
四半期包括利益	4,395	1,791
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,977	1,802
少数株主に係る四半期包括利益	418	11

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,994	2,098
減価償却費	2,196	2,269
固定資産除却損	120	156
のれん償却額	33	33
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(は減少)	664	841
退職給付引当金の増減額(は減少)	170	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	202
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	23	290
役員賞与引当金の増減額(は減少)	46	61
受取利息及び受取配当金	198	239
支払利息	91	76
持分法による投資損益(は益)	141	208
固定資産売却損益(は益)	5	-
投資有価証券売却損益(は益)	0	2
その他の営業外損益(は益)	205	51
売上債権の増減額(は増加)	221	314
たな卸資産の増減額(は増加)	227	1,553
その他の資産の増減額(は増加)	601	606
仕入債務の増減額(は減少)	921	1,325
未払消費税等の増減額(は減少)	63	57
未収消費税等の増減額(は増加)	5	74
その他の負債の増減額(は減少)	786	1,258
小計	5,195	2,930
利息及び配当金の受取額	384	422
利息の支払額	102	65
その他	11	78
法人税等の支払額	997	1,222
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,467	1,986
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	2,454	1,445
固定資産の売却による収入	5	-
投資有価証券の取得による支出	1	-
投資有価証券の売却による収入	10	45
貸付けによる支出	1	-
貸付金の回収による収入	1	0
その他	37	45
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,477	1,352

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	38	511
長期借入れによる収入	86	-
長期借入金の返済による支出	357	417
自己株式の取得による支出	1	0
配当金の支払額	804	810
少数株主への配当金の支払額	60	190
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,097	907
現金及び現金同等物に係る換算差額	212	260
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,105	534
現金及び現金同等物の期首残高	10,164	15,476
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,270	14,941

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が566百万円減少し、利益剰余金が366百万円増加しております。また、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

燃料ガス売買代金の支払に係る債務保証は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
サンライズ・ケミカルLLC	19百万円 (186千米ドル)	サンライズ・ケミカルLLC	13百万円 (134千米ドル)

2 当社においては、資金調達をより確実なものとするため取引銀行と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
貸出コミットメントの総額	8,000百万円	8,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	8,000	8,000

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
運送費・保管料	1,307百万円	1,385百万円
給与・報酬	785	791
役員賞与繰入額	18	19
従業員賞与	258	277
退職給付費用	76	76
福利厚生費	220	238
減価償却費	78	98
研究開発費	1,141	1,337



## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
現金及び預金勘定	11,270百万円	14,941百万円
現金及び現金同等物	11,270	14,941

## (株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

## 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月17日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成25年3月31日	平成25年6月3日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

## 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月16日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成26年3月31日	平成26年6月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	合計
	生活・健康 産業関連分 野	石油・輸送 機産業関連 分野	プラス チック・ 繊維産業 関連分野	情報・電 気電子産 業関連分 野	環境・住設 産業関連分 野他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,914	8,776	4,767	5,224	4,315	38,997	-	38,997
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11	-	4	-	114	131	131	-
計	15,926	8,776	4,772	5,224	4,430	39,128	131	38,997
セグメント利益	1,009	580	625	253	0	2,469	-	2,469

(注) セグメント利益の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	合計
	生活・健康 産業関連分 野	石油・輸送 機産業関連 分野	プラス チック・ 繊維産業 関連分野	情報・電 気電子産 業関連分 野	環境・住設 産業関連分 野他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,725	9,719	5,449	5,278	4,620	40,793	-	40,793
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	9	-	123	133	133	-
計	15,725	9,719	5,458	5,278	4,744	40,926	133	40,793
セグメント利益	813	195	627	298	16	1,950	-	1,950

(注) セグメント利益の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	18円22銭	12円33銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,009	1,359
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,009	1,359
普通株式の期中平均株式数(千株)	110,289	110,271

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年5月16日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....827百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....7円50銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成26年6月2日

(注) 平成26年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月 7日

三洋化成工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松 本 要 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神 前 泰 洋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三洋化成工業株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三洋化成工業株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。